

With コロナ時代の大学における認証システムとアイデンティティのありかた

Perspective of university authentication and digital identity in With-Corona era

企画： 認証基盤部会

オーガナイザー： 細川達己（慶應義塾）、中村誠（東京大学）

Tatsumi Hosokawa (Keio University), Makoto Nakamura (The University of Tokyo)

セッション概要：

COVID-19 の流行拡大は、多くの大学に対してデジタル化・クラウド対応を強制的に促すこととなった。リモート授業やテレワークのみならず、窓口などにおける対面を前提とした事務手続きも見直しが必要となる場合もあり、それらをベースとする認証システムやユーザのアイデンティティのあり方も大きな影響を受けることとなった。これらの経験を経て、今までどのような技術が活用できたか、これからどのような技術が活用できそうか、などの論点についての発表を行う。

内容：

- 1) 「2019年と2020年、そしてその後：認証システムをとりまく環境変化」

細川 達己（慶應義塾）

COVID-19 対応で大学の ICT 環境は大きな変化を経験したが、ICT 利用の要となる認証システムの統計データから、その変化を数字で見ることができる。このデータを中心に、認証システムに関連して起こった様々な出来事を紹介し、今後の認証システムに必要な要素について考える。

- 2) 「京都大学での多要素認証の導入」

古村 隆明（京都大学）

京都大学では、2020年8月に統合認証システムに多要素認証機能(MFA)を追加し、2ヶ月間の利用者自身による MFA 有効化期間を設けたあと、2020年10月に教職員が利用するグループウェアやメールサービス等で、学内・学外を問わず MFA を必須とした。本発表ではシステムの技術的な紹介と、スムーズな導入のための準備、利用者から多く寄せられた問い合わせなどを紹介する。

- 3) 「分散型 ID によるデジタル学生証とオンライン身分証明」

富士榮 尚寛（伊藤忠テクノソリューションズ株式会社）

新型コロナウイルスの感染症拡大を受けて、大学のみならず行政や民間サービスとの連携においてもオンライン化の機運が高まっている。本セッションでは慶應義塾大学にて実施している、分散型 ID 技術を利用した在学証明・卒業証明等をオンライン・オフライン問わず安全・確実に連携するための取り組みと将来の展望について紹介する。

- 4) パネルディスカッション「With コロナ時代の大学における認証システムとアイデンティティのありかた」

江川 淳一（エクスジェン・ネットワークス株式会社）、古村 隆明（京都大学）、中田 寿穂（日本マイクロソフト株式会社）、富士榮 尚寛（伊藤忠テクノソリューションズ株式会社）、細川 達己（慶應義塾）